

北八ヶ岳の麓、白樺の森で 親娘が営む「こもれび山荘」

ラーバニスト
訪問

No.449

吉野雅章・久美子
ご夫妻

埼玉県・さいたま市 ←→ 長野県・佐久穂町

「白駒池まで車で15分、北八ヶ岳の静かな原生林を歩き、山頂で朝焼けを見た後、ここに帰って朝食をとる。まさに朝飯前の贅沢です」と、吉野雅章さん。結婚前、山小屋のアルバイト仲間だった妻・久美子さんの夢は、田舎で暮らすこと。標高1650mの信州・八千穂高原、手つかずの自然が残る白樺の森に、今年5月「こもれび山荘」をご家族でオープンした。雅章さんは、不動産関係の仕事の続け、往来生活をしつつ基盤を固める。実践で鍛えた料理の腕を活かし、山荘の主人を務めるのは、若く頼もしい娘の早美さんだ。

「こもれび山荘という名前は、僕が100個くらい考えた中から、妻と娘を選んで決めました。最後まで候補に残った『モルゲン・ローテ』が運営会社名です。朝焼けをイメージさせるドイツ語なんです」と、雅章さん。

雅章さんと久美子さんは結婚前に、霧ヶ峰の山小屋と一緒にアルバイトをしていた。そして互いに長年「手つかずの自然が残っているところ」「水のおいしいところ」を求めていた。「いずれ鶏を飼うつもりです。山の花々も移植して…夫がまだ勤めを続けてくれてるし、安心してじっくり10ヶ年計画です」と、表情を輝かせる久美子さん。60歳までにと心に決めていた田舎暮らし。最初は普通の別荘を探していたが、楽しい老後を送るには？と突き詰めていくうちに、宿泊施設に心が傾いていったという。「来客のみなさんとの

出会いがあり、毎日に飽きが来ないですからね」。そんな久美子さんの希望は叶った。雅章さんが、ふるさと情報館を通じてこの山荘を見つけてくれたのだ。

「私たちが三代目になるんです。建物の中が実にゆったりと造られていて。寝室、食堂、談話室、階段の踊り場まで…広々していて気に入りました」と、ご夫妻そろって大満足している。

都会と沖繩を行き来し、ホテル建設と町づくりに総合的に携わる雅章さんは、「八千穂高原は、リゾート化全盛時の波に乗りきれなかった。かえってそれで、美しい白樺の森がそのまま残ったのかもしれない」と、当地に着かれた理由を語ってくれた。そして、5月にオープンした「こもれび山荘」の主役といえは、娘さんだ。雅章さんが「モルゲン・ローテの社長です」と紹介してくれた早美さんは、28歳の

若さで「カフェ・くるみの森」と写真ギャラリーが併設された山荘を立派にきりもりしている。

「学生の頃は相撲部のマネージャーで、30人分のチャンコ鍋を作っていました。あれで相当鍛えられましたね」と、早美さん。ホテルの調理場、ケーキ屋さんと実践を重ね、料理教室も開いていた。「教室を閉じ、こちらに来る時は正直不安もありました。でも、せつかく両親が用意してくれたチャンスですから。夢の一步を踏み出さないと…って」。

半年間のイタリア滞在経験も活き、夕食には地元野菜や、庭の山菜を使った、早美さん特製イタリアンがふるまわれる。久美子さんも大好きな信州ワインにびつたりの、豊かな味わい！「看板や石窯づくり、演奏会…娘の仲間がみんなで集まり、協力してくれています」。ご両親の笑顔にもこもれびが揺れている。

▼「水がおいしいと必然的にコーヒーもおいしい（うちはコーヒー豆にもちょっとこだわっていますけど）。それから信州の酒はまた旨い！」と、雅章さん。



PERSONAL DATA

- 現住所：長野県南佐久郡佐久穂町千代里2093-52
- 家族：夫・雅章さん（埼玉・53） 妻・久美子さん（愛知・57）
娘・早美さん（埼玉・28）
- 敷地面積：約600坪（借地権付） ● 建物：約170坪
- 資金調達：自己資金
- メッセージ：夫婦2人で別荘に通う…というのもよいかもしれませんが、やがて飽きちゃう場合もあるでしょうし、自分たちにとって本当に必要かどうか、しっかり考えた方がいいでしょう。空き家になってしまった別荘が並んでいるようなところに行くと、有効利用できるネットワークを作れないかな？と思いますね。



◀◀こもれび山荘から車で15分の白駒池。秋にはルビーの首飾りのように、紅葉が池を縁取る。散策道を進み、「にゅう」という山の頂に登れば、美しい朝焼けを見ることができる。

AREA DATA

◆ 長野県佐久穂町はこんなところ ◆

人口：12,840人

世帯数：4,417戸

面積：188.13km²

平均気温：10.9℃

最高気温：34.7℃

最低気温：-12.7℃

年間降水量：1,040.3mm

スポット：八千穂高原

イベント：紅葉祭り（10月初旬）

特産品：カーネーション、高原野菜

アクセス：上信越自動車道佐久IC経由国道141号線

JR小海線八千穂駅

駅より麦草峠行きバスにて八千穂高原まで



※気象データは観測地点・佐久（標高683m）の過去5年間の平均値。



▲「ろうそくの灯りをともして、このテラスで語り合う月夜も素敵ですよ」と、久美子さん。これからは地元の皆さんとも交流したい…と、ご家族みんなでイベント企画も練っているそうだ。

▶地階には、前宿主さんとのつながりで「井出和彦写真ギャラリー」が併設されており、八千穂高原の自然風景が収められた写真を見ることができる。



▲食堂&テラスは「カフェ・くるみの森」として立ち寄り利用もできる。「埼玉にいる高校生の妹、来実（くるみ）の名前からとりました」と、早美さん。

▶早美さんの仲間がみんなで作ってくれた看板が、入り口に掲げられている。



▲早美さんの仲間がデザインし、設置してくれた石窯。みんなでピザも焼いた。



▲階段下にもテラスがあり、石窯が設置された庭から白樺の森へも降りられる。



▲看板裏は仲間のサインでそれはカラフル！

<http://www.geocities.jp/komorebisansou/>

■こもれび山荘

長野県南佐久郡佐久穂町千代里2093-52

*八千穂高原スキー場すぐ近く

電話：0267-88-4408

宿泊料金：1泊2食付き 9,000円

■カフェ・くるみの森

営業時間：11時～17時（平日）11時～15時（土日祝）

メニュー：コーヒー、紅茶、佐久穂町特産果実ジュース

各400円、ケーキセット800円



▲▶アメリカの絵本作家、ターシャ・テューダーの暮らしに憧れる久美子さん。10年計画の庭づくりを構想中。敷地には、ヤナギランなどの高山植物が多数咲く。



▲各卓にランプが灯る、広い食堂兼カフェ。カウンターの中には雅章さんの絵が飾られている。

▼新づくりは雅章さん担当。来客の皆さんも薪割り体験できる。



◀屋根裏にある雅章さんの「ひみつち」。チーズケーキなど、4種類の中から2つ選べる。



▼食堂とは別に、1階に広い和室の談話スペースもある。暖簾をくぐって囲炉裏を囲み、ここでくつろぎながらの一杯もまた最高だ。

